

母壑

2019・9・24

VOI-25



新小岩幼稚園・未就園児クラス

illustrated by Kurumi

『ここにいていいんだ』

アドバイザー 猪之鼻晴子

前回の話の続きで。

自己肯定感を上げることが一番大事ということ。

では自己肯定感を上げるには？その一番の方法は「誰かのために何かすること」逆説的だけれども、「私ってなかなかやるな」と思えるのは、自分のために何かをした時ではなく、誰かのために何かをした時。

ママは子どもや家族のために動いている時、自己肯定感が上がっている。社会で働くことで誰かの役に立つこと、家族を養うことで自己肯定感が上がっている。ひとが一番きついのは、「あなたはここに必要ないです。」と言われること。本当は必要のないひとなどいないのだけれど、人間は「自分はただここにいてもいいんだ」とはなかなか思えないようにできている。だから、誰かに何かをすることで、「私は必要とされている」という実感が欲しい。

「千と千尋の神隠し」でカオナシは、お金をたくさんあげたら千に気に入られると考えた。でも、「要らない」と言われてしまったら、どうしていいかわからない。どこにいたらいいのか？最後に銭婆のところまで働いてみて、「私のところに残って、私の手伝いをしておくれ」と言われて、やっと居場所を見つける。無表情にうれしい顔がやっと出る。

スーパーボランティアの小島さんは一切の報酬なしに人助けをしている。報酬や表彰や名声が欲しいと思っていない。そういったものよりもずっと大きなものを得ているから、黙々と誰かを助けるために出かけていけるのだろう。

赤ちゃんが生まれると、上の子は赤ちゃんを「かわいい」と思いつつも複雑な気持ちになる。ママやパパの関心が全部赤ちゃんに行ってしまったのではないか？ボクの居場所が奪われたのではないか？やきもちからいろんな行動に出たりもする。その時に「赤ちゃんよりもずっとあなたの方がかわいいよ」と言われても空々しい。上の子が欲しいのは「ここにいていいんだ」という実感。赤ちゃんを少し見ていてくれる、オムツを取ってきてくれる、元気に幼稚園に行って来てくれた。そういうことでママを助けてくれている。まだまだママのお世話にもなるけれど、その子も「誰かを助けている」ということを伝えてたい。「ママ、助かってるよ。」と。家族の誰もがお客さまではない。クラスの誰もお客さまではない。ひとりひとりに係があって、助け合っている。係をもらうことによって、居場所が見つかる。「ここにいていいんだ」と安心できる。年長さんは「私がいなくてちようちよさんのあの子泣いちゃう」と思うと張り切って行かれるのだ。

私も家の中では食事係・洗濯係といったところか。これもひとつの人助けと思うと自己肯定感はグングン上がっている。年中のロクに「たまには洗濯物たたむの手伝ってよ。」と言ってみる。「いいよ。ママのお仕事なくなっちゃうから。」子どもはいろいろ見抜いている。

harukoinohana1717@gmail.com